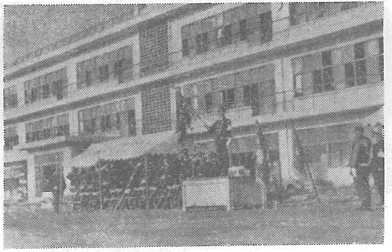
恒例消防初出式

市原茂雄・浅野満両副団長は日本消防協会から其他功労者表彰式挙行

横芝町本年の消防出初式は快晴の一月八日、慣例に従って横芝中学校を会場として挙行された。例年展開される式典及行事ではあるが、寒風を突刺す号令と応酬の気迫は、何時もながら力強く、特に機動部隊の堂々たる隊列の偉容は会場を圧し、観る人の嘆声の因となったが、昨年十一月に購入された第十一分団の消防ポンプ日本機械ＦＲ４０型も此の隊列に初参加をしたので第十一分団では地元の人々に初出式見学の案内状を発送したということで、会場の近くでもあったためか、部落役員はじめ大ぜいの関係者がつめかけて「おいらの自動車ポンプ初の晴姿」を見つめる姿が印象深かった。又真赤に頬を染めて活躍する大木教諭引卒の中学校少年消防隊員の健気な姿も眼頭が熱くなる頼母しさを見せてくれた。



「団旗に対して敬礼！」
気迫漲る一瞬、壇下に立てられた二流の表彰旗が横芝消防団の功績を称えている。

勢揃いをした機動車隊
「これを使わないことが一番」とは言いながら、やはり頼母しい限りであった。

因みに各受彰者次の通り

◎昭和四十年日本消防協会
定例表彰者
▽日本消防協会功績章
副団長　市原　茂雄
▽日本消防協会精績章
副団長　浅野　満
◎昭和四十年千葉県消防協会
定例表彰者
▽千葉県消防協会功績章
第五分団長　鈴木慎一
◎昭和四十一年消防初出式
定例表彰者名簿
（括孤内所属団名）
▽知事功労彰
高橋伊三郎（一）
▽知事精勤章
清水勝三郎（三）高橋好孝（六）川島雅志（十三）平山敬止（本）宇都木庄吉（本）早川昭（二）
▽県消防協会功労彰
若林欽一（三）子安　外史（十二）
▽県消防協会精勤章
伊藤富雄（二）伊藤和一（四）椎名武茂（七）石毛正治（八）小川富雄（十）大木幹雄（十四）菱木武（十一）
▽山武支庁長表彰
伊藤峯雄（二）浅野嘉一（四）越川孝一（六）若梅義郎（五）国井益行（十三）諏訪光弘（本）
▽県消協山武支庁長功労彰
海保寿夫（一）平山正（十二）舛之内恒男（八）
▽県消協山武支庁長精勤章
行方祐雄（十四）森川祐吉（七）石橋恒一（三）永藤貞亮（十一）古谷武雄（十）宇井直幹（九）押尾勲（六）
▽町長感謝状
南川岸＝佐瀬哲司、菅行雄、石渡達男、海保薫、伊藤富治
▽栗山＝清宮梅吉、鈴木恵治
▽鳥喰＝平山いえ、▽上町＝古谷元吉、押尾喜世治、
▽小堤＝神保真、
▽於幾＝子安佐一、実川一男
桜井定夫、子安常夫、於幾区、長寿院檀家
▽無火災表彰
十年　第六分団第二部
▽優良分団表彰
第二分団、第十分団、第十一分団第二部、
▽団長感謝状
▽鳥喰＝行木力、大木信夫、市原志げ
▽木戸台＝大木とし
▽団長表彰
伊藤秀一（本部）他四八名

◎ふる里の話題

樹木

(1)

「なあ、この松が伐り倒されるというのは本当か」

「ああ、県道から新島に抜ける道路が拡がるので邪魔になるので伐られてしまうらしいね」

「学校の建物も丸っきり昔と変ったし、土提も取払われてしまうし、わしらの若い頃の想い出は何もなくなっちまうのか」

「それにして随分立派に育ったもんだ……」

「うん、枝振りも良いし……」

「何とかみんなで此の松を助けようじゃないか……」

「わしらの学校時代から、いや寺小屋時代からあった、想出の松だものなあ……」

昭和三十六年の或日、上堺小学校の裏を通る道路の端で、そろそろ白髪に人生の経験を現わしたような人達が松の大木を見上げながら語り合っていた。

此の松の木は、明治二十年まだ義務教育等という言葉もなかった寺小屋時代にはすでに植えられていたものというから相当長い樹令を持っていた訳である。明治二十七年に学制が発布されて、北清水字入間の旧家宇都木庄蔵氏が所有しておった土地に、上堺村立上堺尋常高等小学校が設立されたとき、学校の裏路沿に土提を囲らしたので、その付近の立木は殆んど伐採されてしまったが、どうした関係か当時まだそんなに大木でもなかった筈の此の松の木だけが採り残されていた。誰が残せと言ったか分らなかったし、又その残ったことに不審を抱いたり、責任を追及するものもいなかったという。

「きっと松の精が皆の心を押えてしまったんでしょう」と附近の或老母は語っているがとに角何の抵抗もなく、何となく其のまま昭和三十六年になっていた。往時の上堺尋常高等小学校は上堺小学校、中学校に別れ、更に中学校は分離して横芝中学に統合し、小学校だけが残っていたが、建物は再度の増改築によって昔の面影は残っていなかったがただ、雨の朝に風の夕べにと七十余年間小学生を送り迎えていた松の木だけは昔と変らず其の場に立っていた。しかも七十五年の才月を経た樹姿は、見事な老樹としての偉容を整え、枝振りも又自然の成長にこよなき美しさを見せていた。その松が昭和三十六年上堺警察官派出所前から上堺農協に通ずる道路の改補が行なわれることになり、小学校の土提も道路にかかり、かくては、松の大木も伐採の浮目に会おうとしたのである。

今更ながら此の松に愛着を感じた往年の小学生？達は、此の道端の立話ばかりでなく上堺村時代の人々の中にも勢鬅として起り「樹容、枝振りも共に勝れ、将来は必らず名木となる偉容を持っている。特に上堺教育史上から見ても、寺小屋時代からの歴史を語るもので由緒あるものと言える」と、いうので遂に残置することになったという。

上堺小学校前の県道を、海岸方面から上って来て、小学校の生垣沿に左折しようとすると、突然目の前に松の大木が聳え立っているのに気がつく、これがその想い出の松なのである。

話によると「近くには幕末の大需学者海保漁村誕生の地もあるので、風致上からも、又上堺小学校縁起の上からも意義あるもの」という理由で保存会が結成されたということである。

明治時代の新聞の用語を引用すれば、畢竟〃文化、文化と、ともすれば自然の恩恵を忘れ、樹木を蔑にする輩の多き世の中に、これは亦極めて寄特なる快挙なり〃とでもいうべきところであろうか。（文責広報室）

◎ふるさとの話題は本号から、話題を持つ樹木について掲載いたします。御愛読いただきました伊藤一男氏の坂田城については其後の研究を稿を改めて掲載させていただきたいと思います。

町長　伊藤績夫
助役　平山豊
収入役　土屋直勝
老人ホーム院長　市原利清
総務課長　石井富雄
建設課長　川島忠
税務課長　田中静
産業課長　小高猶次
厚生課長　小川一枝

横芝町議会議員

議長　伊東巌
副議長　伊藤右仲
議員　市原茂雄
早川公平
小川潔

副会長　小池知夫
県委員　河井昇
委員　小椰奨
実川泰一
伊藤博
川島襄次
嘉瀬惣一朗
伊藤武好
五木田一
桜井敏雄
早川登蔵
伊藤敬一
菅行雄
伊藤巌
若梅久

謹賀新年

昭和四十一年

農業委員会

会長　浅野浩
鈴木英太郎
八角喜久夫
伊藤博
河井昇
高橋正
長野康已
斎藤元一
藤城顕義
大木正
伊藤謙
岩沢英一
平山清
鈴木繁
芹川昌栄

伊藤謙
大木幹雄
斉藤寛治
伊野敏朗

教育委員会

委員長　石橋瑞夫
委員　早川和一
小川文雄
椎名弥一郎
教育長　渡辺祥嗣

選挙管理委員会

委員長　江鳩勇治
委員　早川恂
伊藤壮男
実川正男